

関係各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

2018年産オランダ産・フランス産在庫表送付にあたり

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。
2018年産オランダ産・フランス産在庫表を送付いたします。
よろしくご確認ください。

球根市場状況

世界市場においては、取引は依然遅れている様です。
9月期/10月期くらいから少しずつ品種ごとに動きが出てきている様です。
各国の主要品種ごとにサクサクと取引が進んでいるとの事で、取引相場が瞬時に変わる為、
「これがマーケットプライス！」という価格・見積もりが出しにくい情勢となっております。(流動的)

実際の動向

価格表にてご確認くださいたく存じますが、傾向だけおつなぎいたします。

A. H/L. A

黄色…横這い。使い方が普及していない品種は下げ。
ルンジ…横這い。品種により品薄。使い方が普及していない品種は下げ。
ピンク…下げ基調。使い方が普及している品種を含めて、下げ。
但し品質上疑念の残る品種を中心に下げ。
白…横這い。不足するかもしれない。
赤…横這い。高すぎる価格設定となった品種は、いくらか下げ基調。
アプリコット…下げ基調。
その他の花色・特殊系品種…横這い。

O. H/O. T

白…下げ基調。過剰感がある為。但し特定の使用用途が既に知られている品種の価格動向は発生しない。
圃場廃棄が出る可能性が高まっている。
ピンク…横這い。通称日本向けといわれる品種については、価格動向はない。
(生産流通量が限定的なので、市場価格ではなく、ほぼ定価となる。)
マーロンのみ大幅値下げとなった。(ベトナム・メキシコ市場の影響)
黄色…大幅下げ基調。売れ残っている。圃場廃棄が出るのではないかと救いようが無い。
赤…大幅下げ基調。ベトナム・台湾などの影響。
ピンク/赤の区別が付きにくい花色でどちらかと言えば赤色に分類をされるタイプの品種は、大幅下落。
救いようが無い。
ルンジ系…横這いから下げ基調。
その他の花色・特殊系品種…横這い。
八重…未調査だが、その他の花色同様、横這いかなと想像します。

作況状況/オランダ産

10月第1週に、オランダ現地確認に入りました。
10月上旬のオランダに入るのは、30年以上振りです。東部4地域、南部2地域を確認してまいりました。

- 1) 8月中旬輸出業社作況予測
- 2) 9月上旬輸出業社作況予測
- 3) 9月下旬から10月第1週輸出業社作況予測
- 4) 10月第3週輸出業社作況予測

私が、現地確認したのは、3)の時期となります。

私が7月から予測してきたとおりの状況になってしまっているように見えました。

1)・2)の時期の予測では、作はばらつく。良い畑と悪い畑があり、平均すれば平年並みくらい?という意見が多かったようです。(但し全体的な作付面積は、過剰です。)

2)・3)にかけて、劇的な変化を遂げたようです。

但し輸出業社は、大幅な作況予測分析を変更するには至っておりませんでした。結果、私との見解には若干の差異・温度差がありました。

4)以降、輸出業社の見解は、私の見解に近づいてきています。というか、むしろ「なぜこうなるのか?」「このケースではどうなるのか?」という見解を求められ始めています。

2)・3)では、意見・考察がばらついていましたが、3)・4)で輸出業者間による見解の差異は依然残っていますが、だいぶ整ってきています。各地、各球根農家、各品種に見解が違うという事は、当然残ります。

2018年産オランダ産は

肥大のばらつきは確認されるものの、概ね良好な年と考えられます。

9月/10月期栽培後期の球根肥大は、過去に彼らが経験したことの無い肥大となっている様です。

今年の球根は…、A.H/L.A、O.H/O.T全般に言えることは、豊作型といえると思います。(市場動向も勘案して)

品質傾向

根はしっかりしている。根ばん腐敗が多い。分球率が高くなっている。(暑い年の傾向)

この事により、収益が見込めないことがわかっている品種については、圃場廃棄が出ると考えられます。(仮に販売先が決まっても、その受注割合が生産量に対して少なすぎれば、同様な流れとなります。)

今年のオランダ産球根は、10月上旬のその芽形成状態と、10月第3週以降に及んでも依然オランダ球根農家が経験したことの無い肥大率を維持し続けている事や、当社ホームページに示してある気象推移を勘案すると、フランス型というよりも、既に新潟県赤塚産遅掘球根型と津南産遅掘型の間くらいイメージになってきています。

これらの気象条件により栽培された球根を取り扱う経験は、誰もありません。(比較対象となる年が何年前かに一度ありましたけどね…。)

予測される難題は、促成作型、早期抑制作型、中期抑制作型、後期抑制作型、時期毎にポイント・問題点が異なります。

そして、現時点においては、断定的に「このような対策を取ってほしい」と切花生産者皆様にお繋ぎすることは時期早々と考えています。(ここからの3週間~10週間、天候推移を待たないと決まってこないから。)

もう少し判断するのには時間がかかります。

しばらくお待ちください。

懸念しているポイントは、中温期間の不足。

プラスサイドの低温期間の不足。

仮に、休眠は打破されていたとしても、十分な芽形成を行うための低温積算が不足するかもしれないという事です。

加えて、掘り取りを十分に遅らせていただかないと若掘傾向となってしまう事でしょうか。

この事は、球根農家・輸出業社ともにわかっていると思いますけどね。

すでにA.H/L.Aの掘り取りが始まっています。きちんとした対策がとれるかどうか、現在検討中です。

作況状況/フランス産

鉄砲百合の掘り取りが、終盤戦を迎えている様です。

フランス鉄砲/オランダ鉄砲の面積比率は、世界需要をベースに考える9:1の割合になっており、圧倒的にフランス鉄砲の面積割合が多くなっています。

肥大はやや悪く、大球が出てこない傾向になっているとの事でした。

今年は、現地確認に入りませんでした。10月第2週にPO社仕入担当が2日間かけて現地調査に入っています。

最も注目していた芽の大きさは、通常同じ時期のオランダ産とフランス産を比較した場合、フランス産の方が圧倒的に大きくなっているものですが、(9月上旬比較でも、12月上旬比較でもという意味です。)今回は同等のサイズか、むしろオランダ産の方が大きめとなっております。

これは2002年の調査以来、初めての事となります。

*逆に言うと、18年産フランス産は、通常通りのフランス産の使い方をして良いのではないかとと言えます。

ウイルス対策に万全を期していただき、「いつ植えたらいつ切れるか?」と悩なくて良い、球根に仕上げていただきたいものです。

オリエンタルO.Tの掘り取りにはまだ時間があります。(オランダ産より1か月くらい遅い)
十分な中温温度帯、低温温度帯が確保できることを願っています。

肥大が悪いのではないかと情報が入っています。

1軒の球根圃場において、大量にフザリウムを発症しているという情報が入っています。

シベリア・ソルボンヌなどで関わりある農家です。

フランスについては、ウイルスを除くその他の品質・球根の使い方について、難易度が高いという懸念材料はあまりありませんが、大量欠品をやや心配しています。

但し早期・中期抑制作型にのみ限定すれば、18年産オランダ産でカバーできる品種・球根があると思います。

以上、簡単ではありますが、情勢をお繋ぎいたしました。
不明な点等ございましたら、ご連絡ください。

森山 隆